

地域活性化のための企業創設活動

朝日信用金庫 営業推進部 地域産業振興室長 真船 光彦

I. はじめに ～地場産業の活性化～

朝日信用金庫の本店所在地であり、営業基盤でもある東京都台東区は、江戸の昔から商業の町・観光の町として発展してきました。

また東北の玄関口として、人が集まる活気のある場所上野、歴史と伝統の浅草として全国的な知名度も高い場所であるものと地元の住民も認識をしています。

このようにして、平成16年4月、台東デザイナーズビレッジが誕生しました。



(台東区の位置)

II. 台東デザイナーズビレッジ の創設

台東区は、地場産業として皮革産業、そしてファッション産業の全盛期には隣の千代田区大手ファッションメーカーが軒を連ねていたこともあってその下請け企業、中小のファッションメーカーが育ってきました。

しかし、最近は皮革製品も繊維製品も、東南アジアをはじめとする開発途上国に生産を頼るような安価な商品が国内に流入し、メイドインジャパンが鳴りを潜めている現況です。

その影響を受けた地場産業の零落に地元産業界は危機感をもち、台東区を巻き込んで産業再生策の構築を図りました。

他方、台東区内も少子化が急速に進み、区内小学校の整理統合が必要となり、小島小学校を廃校とすることにしました。小学校校舎の再利用の方法を検討する過程で、台東区の発案により、校舎をファッション起業家のインキュベーションスペースとして活用し、新規事業者を発掘して業界の再発展の機会を創ろうということになりました。

台東デザイナーズビレッジの概要

◆開設 平成16年4月1日

◆所在地

東京都台東区小島2-9-10
(旧小島小学校)

◆建物

鉄筋コンクリート3階建て敷地面積3,144㎡延床面積3,096㎡

◆創業支援オフィス 19室

◆入居条件

- (1) 靴・鞆・ベルト・帽子・アクセサリー・アパレル等のファッション産業及びデザイン・コンテンツ関連産業に携わるデザイナー等、もしくはファッション関連産業やデザイナーを支援する業務を行う者等。

(2) 台東区での創業を予定している、または創業 5 年以内の企業ないし個人。

(3) 事務所は完全個室であり、19.7 m²～37.3 m²の 4 種類、24 時間 365 日使用可。

使用料：月額 8,000～16,000 円
共益費：月額 21,000～27,000 円

◆支援（ハード・ソフト・ネットワーク）

(1) ハード（施設）

低廉な家賃でのオフィスの利用が可能であるほか、作品制作スペースや展示スペースなど、共有施設を利用することもできる。

(2) ソフト（支援・指導）

インキュベーションマネージャー（村長）によるマーケティングアドバイスや、台東区経営支援課の支援、地元金融機関による支援を受けることができる。

(3) ネットワーク

入居しているデザイナー同士はもとより、地元産業界やマスコミ・流通業界等とのネットワークを構築できるため、新たなビジネスチャンスが生まれる可能性がある。

当金庫としても、地元の発展支援は重要な課題であると考えていたところから、発足と同時に起業者の資金調達金融機関として側面から支援することとしました。

現在台東デザイナーズビレッジに入居している事業者は満室の 19 名（社）で、当金庫の取引利用者は約半数にのぼります。最近都内各所にもインキュベーション施設ができつつありますが、台東デザイナーズビレッジの活動は成功例として高い評価を受けています。

Ⅲ. 浅草ものづくり工房の創設

台東区浅草では観光事業が江戸時代から活発でしたが、産業としては皮革製品、特に皮靴の製造販売が盛んでした。

しかし、かつては輸出国でもあった日本が、近隣諸国（特に中国）において安い労働力での低価格商品の製造を行うようになったため、国内の需給バランスが崩れたばかりでなく、技術の流出もおきました。さらに、廉価な商品が流入したため取り扱い業者は軒並み縮小・廃業に追い込まれ、皮革製品の製造販売は斜陽産業と呼ばれるにいたりました。



「花の雲 鐘は上野か 浅草か（芭蕉）」
（台東区の花・桜）

皮革という素材そのものについても、合成素材が皮革にひけをとらないレベルまで品質改良されたことにより、安価であるのみならず、加工のし易さも評価される素材に成長しました。合成素材の品質向上が廉価な商品の乱造につながり、需給バランスの崩壊に輪をかけているのが現状なのです。

この現状を打破し、再度浅草を皮革産業の町として復活させようという動きが、皮革製品の取り扱いに携わる有志から起こりました。話を受けた台東区も賛同して、台東デザイナーズビレッジの成功を例に、皮革製品を主としてジュエリー、アクセサリー等の取扱いを志す若手事業希望者を募ってインキュベーション施設を創設しようということになりました。

このようにして、平成21年12月1日、台東区立産業研修センターの空きスペースを活用したインキュベーション施設「浅草ものづくり工房」がオープンしました。

ものづくり工房入居者は独立創業までにはやや時間を要すると思われませんが、当金庫は台東区内産業の活性化・発展への寄与を目的として、開設当初からディレクター、マネージャー、入居者とコンタクトを取っています。当金庫本部地域産業振興室と、工房を営業エリアとする浅草支店が共に、諸相談を受ける体制を構築しています。

ものづくり工房の概要

◆開設 平成21年12月1日

◆所在地

東京都台東区橋場 1-36-2
台東区立産業研修センター

◆建物

鉄骨3階建て
延床面積 932.78 m²

◆創業支援オフィス 9室

◆入居条件

- (1) 靴・鞆・バッグ・ベルト・帽子・ジュエリーなど台東区のものづくり分野を支え、業界の活性化への貢献を目論む職人・クリエイター等であり、台東区内で創業を予定している個人、または創業5年以内の法人。
- (2) ビジネスを拡大する意欲が高く、また創業のための支援が必要と認められる者。
- (3) 台東区の地場産業や地域の活性化に寄与する活動を行う意欲のある者。
- (4) 施設の利用期間（原則3年以内）終了後、台東区内において引き続き事業を行う意思を有する者。
- (5) 工房は完全個室（31.5 m²～39.2 m²）で24時間365日利用可。
家賃：10,000～12,000円前後
共益費：18,000～22,000円